

別府市公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成 30 年 12 月 17 日（10：00～11：00）

場 所：レセプションホール

◆意見要旨

開会

事務局：20 人の出席により、規約を満たしている。

1 報告

(1) 委員の交代について

（事務局長説明）説明内容省略

(2) 別府市地域公共交通再編実施計画策定委託業務委託業者の決定について

（事務局長説明）説明内容省略

2 議題

(1) 東山地区事前予約型乗合タクシーについて

（事務局長説明）説明内容省略

（質議応答）以下のとおり

会 長：6 ページの利用者集計について、何箇所かで乗降できるようになっているが、どこで利用する人が多いか。

事務局：一番多いのは別府駅西口、次に多いのは霊泉寺で通院されるかたが多く使っている。次に多いのが、別府市役所、最後に男女共同参画センターとなっています。

会 長：山の口の住民は人口が少ないが多く使っているようにあるが、何か事情があるか。

事務局：山の口の方は定期的に通院や買い物で利用されている。単身の高齢者や車をお持ちでない方が多く、これまでは柚の木線を利用していた方が多い。この地域の中にも、バス停まで距離がある方もおり、ドア to ドアでの運行が好評である。

会 長：枝郷の方は人口も多く、登録率も高いがあまり利用されている方がいないがなぜか。

事務局：枝郷は東山地区の中でも若い世代の方が多く、自分の運転や家族の車で送迎してもらう方が多い。利用者登録をしなければいざという時に利用できないので、自治会が利用者登録をしておくように広報してくれ、登録者は多くなった。その中で利用されている方は、ご家族が近くにいない方で定期的な通院、買い物に利用している。

（協議結果）原案のとおり承認

(2) 別府市地域公共交通再編実施計画策定委託業務の内容について

(事務局長説明) 説明内容省略

委員 ①:バスロケーションシステムについて説明(説明省略)

委託業者:別府市地域公共交通再編実施計画策定業務 業務進捗報告について説明(説明省略)

(質疑応答) 以下のとおり

委員 ②: Google Map に情報提供して多言語で情報が表示されるということだが、「定刻」と表示されるとはどういうことか。

委員 ①: Google で検索すると何時発、何時着や目的地までの経路が出るが、出発時間の横にバスの遅れや定刻などの情報が出るようになる。リアルタイム情報の提供が出来る。

委員 ②: バスが行ったかどうかかわからず、観光客がバスに乗り遅れることなどがあるので大変助かる。大分・別府・佐伯・由布院で使えるという事だが、案内所で、臼杵・日出・杵築についても聞かれるが、今後導入する予定等はあるか。

委員 ①: 今回の補助の範囲が大分・別府となっている。拡張性のある作りこみをしているので今後グループ会社等でも導入の意向とニーズが見込まれれば検討していきたい。

委員 ②: バス停やバス車内の表示が非常にわかりやすくなっている。しかし、バス停の表示を名称だけでなく目的も表示できるようにしていただきたい。降り遅れることが良くあるという結果がアンケート調査で出ている。車内でも出来れば多言語で名称と目的をアナウンスしていただきたい。(例: 交通センター ⇒ フェリー乗場)

委員 ③: みんなのタクシーの予約方法について、タクシー会社で受けてもらえないかという話は以前から伺っており、改善の検討をしているが各社が週替わりで行なっている現状で難しい点がある。タクシー会社としても公共性の強い役目を積極的に引き受けていこうという基本方針があるので何とか改善していきたいと思っている。改善に向けた他県の事例について情報提供していただきたいと思う。

会 長: 再編実施計画の計画期間についてはどう考えているか。

事務局: 網計画、アクションプランの計画期間が平成 32 年度までとなっているので、基本的にはそれに合わせていきたいと考えている。

会 長: フェリーとの乗継について、フェリーの着く時間に合わせてバスのダイヤを調整しているか。

委員 ①: 大分交通はフェリーの着く時間に合わせて別府駅行き、大分駅行きを入れている。

また、フェリーに乗る際は APU 線がかなり出ているので第三埠頭入口で降りてもらおうようアナウンスしている。

会 長: 県の方で東の玄関口として、まずは港湾の整備を行い、その後にバス停をどうするかという話になると聞いている。

委員 ④: 亀の井バスもフェリーと接続をしている。今後、交通センター自体をどうするかという検討をしている。港自体を人が集う場所にしたいという方針の元検討している。

亀の井バスの東山バス路線をタクシー協会にお願いするようになった。これからは人手不足の中、中山間地の住民をどうやって運ぶかという難しい問題である。コンパクトシティという方向性のもと、行政として、事業者としてどこまで変わるのか非常に難しい問題。事業者として極力維持をしていきたいが、赤字になると行政に補助をもらわないといけなくなる。これからの人口減少、税収の減を考えると、今後限界まで来た集落にタクシーを出すのというのは難しくなる。その辺を委員の皆様にも真剣に考えて協議いただきたい。バス会社も社会情勢に応じて、バスが本来どこまでやるべきなのかを考え、限られた運転士の数の中なかなか苦戦している。遼を建てても給料を上げて運転士が集まらない。難しい曲がり角に来ているが、地域を疎かにするつもりはないが、最終的には運転士がいなくなっただけ減便になるという最悪なシナリオだけは避けたいと考えている。

会 長：路線の維持は利用される市民を含め支えていくという姿勢がないといけない。市も行き届かない財政的な面や、一方では市民の方のニーズなど色々と問題がある。また、中山間地だけでなく、市街地に近い所でも団地の中をどうするのかなどの問題も提起されている。色々な事を考えながらまずは皆で支えるという姿勢を持たないと問題の解決には繋がらない。

委 員 ④：参考資料の表にあるが、バスとタクシーにＩＣカードの導入が掲げられているが、タクシーではだいぶ情勢が変わり、ＩＣカードよりもスマホでバーコード読取りする、楽天 Pay や PayPay、Alipay などの方式で進んでいる。これが全国のスタンダードになっているため、当初の計画とは違った形になる。

委 員 ⑤：バス、タクシー事業者の方とＪＲも同じような立場で、地域の皆さんを疎かにするわけではなく一所懸命頑張っていきたいと思っている。また、交通結節に関してもバス、タクシーとも連携してより便利の良いものにしていきたい。

1つアイデアだが、みんなのタクシーという良い名前がついてるので、磁石でも良いので、どれがみんなのタクシーかわかるようにしてはどうか。本格運行になる際には付けてみてはどうか。

会 長：みんなのタクシーのアピール方法については事務局でまた検討していただきたい。

委 員 ⑥：公共交通の持続的にやっていくためには運転士不足など色々な問題がある中で、タクシー協会が全国をあげて公共交通に力を入れようという動きがある。そういった中で、なかなかタクシー事業者とバス事業者が協力・連携するのが難しい部分が出ている。その中で、今後の公共交通をどうしていくのかという協議会が東京で行なわれている。その会議での検討結果次第で補助制度も変わってくる可能性もある。交通事業者に対しての補助制度のあり方や、どうしようもない所では、地域の互助で守るのか、自家用有償で守るかなどといった事を考える場がこの協議会になり、今後この協議会の位置付けが重要になってくると思うので引き続き活発な議論をお願いしたいと思う。

会 長：10号線の地下道になっている交差点について、横断歩道になるようだが、いつ頃になりそうか。

委 員 ⑦：まだ具体的には決まっていないが来年度を予定。ラグビーワールドカップに間に合うように。

(協議結果) 原案のとおり承認

3 その他

田北委員：大分空港～釜山・務安線の就航について
(説明省略)

閉会